

令和3年度学校評価及び令和4年度重点課題

1. めざす学校像

【教育方針】

個々の能力を十分に伸ばさせると共に、品性の高い教養のある人間を育成する。思いやりのある豊かな心、真理を追究する真摯な心、自己を厳しく律する克己の心を育て、文化国家の担い手にふさわしい人材を育成する。

【教育目標】

豊かな知性、正しい判断力、理解力を養うことを教育の根本とし、将来の目標を達成するために、恵まれた環境を活用してきめ細かい指導を行う。基本的な生活習慣を身につけさせるための躰については十分留意、厳しく指導し、あくまでも清楚にして質実健全な校風の高揚につとめる。

2. 中期的目標

1. はじめに

普通科総合選択制・進路別指導により、本人の能力を十分に発揮できる教育を目指す。多様で個性のある子どもを受け入れることができる学校として、その存在感を教職員全体で示していく。

総合選択制の優位性を個々の指導に反映させると共に教員の意識改革を進める。

2. 普通科総合選択制の更なる充実

- 1) 満足度調査（生徒向けアンケート）の実施
- 2) 基礎学力の底上げと選択科目の充実
- 3) 共通履修科目・TT授業の拡充
- 4) 個々のニーズと学力向上
- 5) 総合的な探究指導
- 6) 進路別指導、小論文指導、検定学習（漢検）、エリア学習（公開）
- 7) ICTを導入した授業展開（すらら学習）の充実
- 8) 指導要領改訂に向けて

3. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

- 1) 遅刻指導の徹底
- 2) 定期的な頭髪服装検査の実施
- 3) 登下校中のマナーの向上
- 4) 講習会の実施（薬物乱用防止講習、自転車講習、携帯スマホ講習など）

4. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

- 1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実
- 2) 部活動の活性化
- 3) 生徒会活動の充実

5. いじめ問題

- 1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

【普通科総合選択制アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

普通科総合選択制アンケートの結果と分析(令和4年1月実施分)	学校評価委員会からの意見
<p>○「選択の基準」に見られる「満足度」 ここでは、「①進路」「⑤シラバス」を基準として選択した者について「満足度」が高い傾向がみられた。また、「⑦友人と同じ」や「⑧先生の勧め」を選んだ者については自分で意思決定が出来ていないことから、「満足度」が顕著に低い傾向がみられた。</p> <p>○「進路を決めた時期」に見られる「満足度」 ここでは、「①1年前半」に進路を決めている生徒の満足度が80点を超えていることから、入学後から進路について考えている生徒の意識が高く満足した科目選択ができていると言える。「⑦まだ」を選んでいる生徒は、極端に満足度を下げていることから、自分の進路が明確に決められていない生徒は、当然満足した選択が出来ていない。したがって、自分の進路を早い段階で決め、自分の進路に即した選択をすれば、授業への「満足度」も上がると考えられる。</p> <p>○「進路とエリアの合致」に見られる「満足度」 ここでは、進路とエリアが合致すればするほど、選択授業の「満足度」が高い傾向となった。「④全然合っていなかった」のようにエリアの意識が全くない生徒は「満足度」が非常に低い結果となった。 このような分析から、選択授業を決める際には、「進路」と「エリア」を十分に意識させて選択させる必要があることがわかる。そのためにも、1年次の選択科目最終調査までに自分の目標とする「進路」を設定できることが好ましい。</p> <p>○全体を通して 自分の進路について、早い段階で考え始めることが重要であることがわかる。選択するにあたって希望する進路に沿った決め方をしたものは満足度も高くなっているが教員に勧められて選択したものは満足度も低くなっていることがわかる。 入学と同時に3年後を見据えた教員の働きかけが重要である。</p>	<p>*学校教育の質的向上に向けて、継続的に取り組んでいるのは大いに評価できる。今後も箕面学園の教育理念のもと教職員一同が生徒には親切、丁寧、大事に向き合って、満足度向上に向けて取り組んで欲しい。</p> <p>*入学後早い段階で進路を決めている生徒の満足度が高い事には一定評価できる。今後は進路がなかなか定まらない生徒に対してどう向き合うか検討していく必要がある。</p> <p>*進路とエリアの関係を意識した選択 進路とエリアが合致する生徒の満足度が高いことは明確な希望進路を設定できている生徒にとって満足できる講座を提供できていることと評価できる。生徒が早くから希望進路を考えられるよう進路指導などを通じてこれからも促していく必要がある。</p> <p>*全体を通して 選択科目を選ぶ際に進路に迷いのある生徒により適切な助言ができるよう努めることまた生徒が早期に希望進路を決められるよう促すことが重要です。引き続き生徒に丁寧に向き合う取り組みを続けてください。</p>

遅刻数、頭髪指導者集計・学校行事アンケートからの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>遅刻指導・身だしなみ等、各学年・生徒指導部中心に検査を実施してきた。</p> <p>数年前と比べると頭髪検査で指導も受ける割合は少なくなってきた。遅刻指導ではポイント指導という本校独自のものも取り入れている。</p> <p>1日平均で比較すると、全体を通して欠席の減少傾向はみられるが、コロナ禍の状況で出席停止の申請は増えた。遅刻も改善は見ることができず横ばいの状況である。来年度も欠席、遅刻が減少するように働きかけは引き続き行っていかなければならない。</p> <p>エリア学習は今年度、4回しか実施することができなかった。少ない学習であったが欠席、遅刻の問題解決は出来ていないので来年度も引き続き、意識付けを行って行きたい。</p> <p>学校行事について今年度は体育大会、球技大会がコロナ禍の中、延期となり、11月にスポーツ祭という形で実施した。文化祭は規模、開催時間を縮小する形で実施した。制約のある中、生徒たちが楽しめることを目標に行事の企画実施ができたと考えられる。</p> <p>クラブ活動活性化については、柔道部が昨年度に続き近畿大会へ出場するなど今年も公式戦で上位進出を果たすクラブが出てきた。一芸一能制度を利用して入学する生徒も増え、アスリートクラブを中心に頑張っている。今後に期待したい。</p>	<p>*数年前と比べると、遅刻数や頭髪検査、特別指導を受ける生徒が大幅に減少し、学校の質の向上、教職員の指導の成果と評価できる。 今後はその時代に合わせた指導を都度見直しをしていく必要があると言える。</p> <p>*学校行事に関して、コロナ感染対策で中止や延期せざる終えない中どうすれば実施することができるかを考え、実施してきていることは教職員が感染対策を万全に実施できているからこそ、行えたと評価できる。</p> <p>*クラブ活動はアスリートクラブ以外も入部率が年々向上し学校全体の活性化が図られている一方、活動場所の確保に向けても今後の課題として検討していかなければと言える。</p>

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
総合選択制の更なる充実	生徒の学力向上に向けて	<p>昨年度に引き続きAIによる個別学習システム「すらら」を英、数、国の一部選択科目で使用し学力の向上をはかる。</p> <p>○本年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すらら」利用選択科目での学習 ・「すらら」希望者の学習 <ul style="list-style-type: none"> *柔道部は部単位で学習した。 ・オープンキャンパスでの利用 <ul style="list-style-type: none"> *「すらら」体験コーナーの設置 *体験IDの配布 ・(就学・学習) 支援生徒の学習保障 ・補完として 	<p>「すらら」の利用により、基礎学力の向上が見られるが、ICT化とも連動し生徒全員が「すらら」に引き合えるよう目指す。</p>	<p>○選択科目での学習</p> <p>ICT導入のコンテンツとして一定の役割を果たすことができた。</p> <p>○希望者の学習</p> <p>定期考査に向けての学習課題や校内模試に向けての学習課題を配信した。利用状況は生徒によってまちまちで、ほとんどログインしない生徒もいた。そのような生徒に十分な指導が行き届かなかったことが反省点としてあげられる。また、前年度の反省点としてあげられた個々の生徒を指導するシステムの確立や各教科との連携なども充分におこなうことができなかった。</p> <p>○オープンキャンパスでの利用</p> <p>おおむね好評であった。</p> <p>○支援教育の学習保障・補完</p> <p>令和3年度は支援教育での利用はなかった。</p> <p>○令和4年度の生徒端末の導入に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生全員へのすらら学習導入に向けて、各教科で「すらら学習」運用カルテを作成し、授業、朝学習での学習内容計画について検討した。
	選択科目の充実	<p>生徒へ普通科総合選択制についてのアンケートを実施し、教員の授業改善などの参考資料とする。</p>	<p>アンケートで普通科総合選択制の理解度や、生徒各々が希望する進路に応じた授業選択または教員が生徒の能力に沿った授業を行っているか満足度で評価し、全ての項目で60ポイント以上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の満足度平均 68.7(69.2) ・専科の満足度平均 66.9(68.1) ・基礎教養の満足度平均 70.1(70.0) ・2年次の選択授業満足度平均 68.4(68.5) ・3年次の選択授業満足度平均 69.0(69.7) <p>全ての項目で目標値の60ポイントは上回っているが、昨年度より全体的に若干ポイントが下がっている。選択枠毎の開講講座の精選やシラバスの改善は毎年行っており、今後も生徒に合わせた改善を行っていく必要がある。</p>
	<p>○エリア学習の実施</p> <p>*アドバンス</p> <p>① 大学・専門学校受験に必要な学力養成を目指す。</p> <p>② 大学・専門学校進学へ向けて進路意識向上を目指す。</p> <p>③ 大学・専門学校進学後も通用する学力養成を目指す。</p> <p>④ 新カリキュラムに向け、教科と連携して教科時間内の学力養成の方法を模索する。</p> <p>より進学実績を上げるために選抜クラスを設定する。</p> <p>また7限目口座を開講する。</p> <p>*キンダーアンドウェルフェア</p> <p>【キンダー】</p> <p>保育実習準備・季節の行事・造形技術表現・音楽・リズム表現などの講習を行う。</p> <p>【ウェルフェア】</p> <p>福祉に関する座学・車いす実習・危険個所調査・調理実習、コミュニケーション学などの講習を行う。</p> <p>*アスリート</p> <p>基本的には各クラブにおいて、実技講習や実践理論講習、練習試合などを実施し、専門的なスキルアップ</p>	<p>個々の生徒の自己実現を目指して、アドバンス(大学・短大進学)、キンダーアンドウェルフェア(幼児教育・福祉)、アスリート(スポーツ)、キャリアアップ(就職、専門学校進学)の4つのエリアに分かれて、学習する。</p> <p>*アドバンス</p> <p>学年や目指す大学の受験形式に応じて、受験学習講座、小論文指導・面接練習を中心とした授業、国語・数学選択、英語必修の習熟度別授業、進路意識向上の講座を開講する。</p> <p>サマーセミナーを実施する。</p> <p>*キンダーアンドウェルフェア</p> <p>【キンダー】</p> <p>保育実習準備・季節の行事・造形技術表現・音楽・リズム表現などの講習を行う。</p> <p>【ウェルフェア】</p> <p>福祉に関する座学・車いす実習・危険個所調査・調理実習、コミュニケーション学などの講習を行う。</p> <p>*アスリート</p> <p>基本的には各クラブにおいて、実技講習や実践理論講習、練習試合などを実施し、専門的なスキルアップ</p>	<p>エリア学習については各エリアの活動方針に沿って総括する。</p>	<p>今年も昨年度に続くコロナ禍の中、4回しか実施できなかった。</p> <p>*アドバンス</p> <p>今年度は新型コロナウイルスの影響で、欠席や出席停止の生徒が多かった。その中でも出席している生徒に関しては目的を持ってエリア学習に取り組むことができた。</p> <p>6月13日には3年生対象エール学園主催関関同立模試をエリア学習内で実施することができた。2月5日には1、2年生対象河合塾主催全統記述模試をエリア学習内で実施する予定だったが、実施できなかったため2月24日に実施した。</p> <p>3年の入試前に関してはアスリートエリアの生徒も受け入れ、志望理由書の添削などを行った。</p> <p>*キンダーアンドウェルフェア</p> <p>【キンダー】</p> <p>今年度も新型コロナウイルスの影響で、実施回数や活動人数に制限のある実施となったが、課外活動や体験的な講座を実施することができた。今年度は3年生が積極的に保育実習やクリスマス会に向けて準備をすることができ、3年間の幼児教育の授業やエリア学習を今後の進路に繋げていくことができた。</p> <p>次年度も7限目ピアノ講座、専科・基礎教養、</p>

附属幼稚園の幼児との関わりを通して、『保育』を体験する
進路へのイメージをより具体的にする。
【ウエルフェア】
基礎的な知識を学び、社会性・協調性の向上を目指す。
福祉に対する関心を深くしていくことを目指す。
進学・就職についてのイメージをより具体化する。
◇ エリア方針
保育・福祉教育の向上
卒業後の進路に関する意識の向上
生活習慣の改善による出席率の向上
専科・基礎教養との連携を強化
*アスリート
競技スポーツに必要な知識や理論を総合的に学び、アスリートとしてのスキルアップを図る。そして、スポーツを通じて心身を鍛えるとともに、自己実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。
*キャリアアップ
【目標】
・総合的な人間づくりを目指す。
・中学校評価（面倒見がいい学校）をより高める。
・生徒の進路に向けての意識の向上
【方針】
・社会で生きていく力の育成。
・キャリア教育の充実
・土曜日の出席率を上げる。
①「社会を知る」力の向上
・職業観・仕事観の養成
・社会人としての常識やマナー
・時事問題
・メディアリテラシー
②「自分を知る」力の向上
・自分の個性や適性を考える
・自己PRの作成
③自己表現力の向上
・作文

を図る。その上で、アスリートエリアとして共通講座を開講し、必要な知識や理論を学ぶ。共通講座は、トレーニング講座・体のケア（テーピング・ストレッチ）講座・食育（体づくり）講座・メンタルトレーニング・ケア（目標設定）講座・救急救命講座など。
*キャリアアップ
・班によるLHR（毎回学習テーマを設定）
・班別講座（担当教員1名に着き1講座）
※【学びのテーマ】①～④もしくは⑤で設定
・その他業者による講習会や講演会などを企画する。
・班による朝礼・終礼をおこなうことで出席状況を把握する。
・サマーセミナー、サマーキャンプを実施する。

エリア学習を連携させ、引き続き知識・技術の向上目指し、幼児教育への意識づけもしていきたい。

【ウエルフェア】

数少ないエリア学習の中、制作や車いす実習、五月山動物園での写生学習など実際に身体を動かして取り組めたことは生徒にとって良い経験となった。

反省点として福祉の講座で点字講座ができなかったなど、福祉の3か年計画がまだ未熟であることがわかった。

今後は、コロナの状況を注視しながら、介護施設職員による専門知識講座や点字・車いす実習の充実をはかり、ビジネスインターンシップにも参加させたい。また7時間目講座を実施し、福祉入門・基礎・エリアで学習した内容の復習等を行い、福祉の基礎知識を習得させたい。そして、簡単な資格取得をめざし、もっと魅力の持てる講座内容にしていく。
*アスリート

基本的には各クラブにおいて活動した。また、共通講座としての「目標設定講座」を各クラブの適当な時期に実施し、生徒の意識向上につなげることができた。

エリア学習によって活動時間が確保でき、外部指導員による講習（リモート含む）も行うことができ、生徒のアスリートとしてのスキルアップにつながったと感じている。また、生徒自身もアスリートエリアに所属していることで自覚も芽生え、学校生活にも向上心をもって取り組む生徒も増えてきているように感じる。全体的にエリア学習の時間は充実したものになっていると感じている。一方で新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施回数が減ってしまったことは残念だった。
*キャリアアップ

【目標】であげていることについて、コロナ関連の影響で、エリア学習実施回数が少なく、十分な取り組みには至らなかった。

【方針】であげている項目について、欠席については、例年通り、途中から高止まりするという傾向のままだった。どのような取り組みが必要なのか検討していきたい。

サマーキャンプについてはコロナ禍の影響で2年連続で実施できなかった。

サマーセミナーは実施できた。

他に下記7限目講座を検討し実施した。

- ・漢字検定対策講座
- ・丁寧な字を書きましょう
- ・放課後実験室（部活動とのコラボ）

<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 ・字を丁寧に書く ④生活力の向上 ・マネープランなど「お金」まつわる学習・消費者教育 ・自分で生活するための「衣食住」に関わる学習 ⑤基礎学力向上 ・小学校や中学校の学び直し ・高校での授業の復習や考查対策 ・漢字検定などの資格取得 ・PCに関する基礎的な技能 			
<p>学習習慣の形成</p>	<p>毎朝ホームルーム10分間で朝学習の課題に取り組んだ。10月末の読書週間では朝読書に取り組んだ。</p>	<p>朝学習に取り組むことで授業にスムーズに入れるなどの学習習慣を形成する。</p>	<p>数値化することは困難ではあるが、年々遅刻者も減少しているように少しずつではあるが習慣づけができてきている。</p>
<p>進路別指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7限目授業 おのおのの進路に応じた講座を実施した。 *アドバンス 進学講習 *キンダーアンドウェルフェア 幼教音楽講座 *キャリアアップ 年度途中より3つの講座を開講 *小論文講座 	<p>基本的に希望者への個別指導で学力の向上をはかる。小論文講座については新型コロナウイルス感染予防のための臨時休校の影響で、十分な回数を実施できなかった。</p>	<p>生徒、教員ともに継続への期待が高い。一層の充実を図る。</p> <p>小論文講座は臨時休校により回数が減った分を課題学習での取り組みに変えたが、意欲的に取り組むことのできる生徒とできない生徒の差が大きく見られる結果となった。</p>
<p>小論文指導</p>	<p>文章作成能力の向上に向けて小論文指導を総合学習の中で行った。学年ごとに生徒を十数名の少人数班に分け、それぞれ決まった担当教員を付けて指導した。</p> <p>「学研教育みらい」の次の教材を用いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年 文章の書き方講座 2年 キャリアデザイン講座 3年 志望理由書講座 <p>適宜放課後の補習も行った。</p>	<p>それぞれの教材に対応した小論文テストを生徒に受験させた。</p>	<p>第1学年</p> <p>小論文指導は、昨年度と比較すると文章を書く能力の低い生徒が多く、常体・敬体の統一でつまずく生徒も多くみられた。そのため、説明作文テストまでの4回の指導では、常体・敬体の統一や原稿用紙の使い方について重点を置きながらの指導となった。</p> <p>また、内容についても自身の経験を、具体的に挙げることはできてまとまりのある文章にすることができない生徒がみられた。補習については、本年度も各担当教員での補習をお願いし、その後小論文担当での補習を行った。</p> <p>2学期以降に行った意見作文については臨時休校などもあり、当初の予定より大幅に短縮する形で実施せざるをえず、きめ細やかな指導をすることができなかった。</p> <p>その対応として、休校課題という形で送付したが、意欲的に取り組むことのできる生徒とできない生徒の差が大きく見られる結果となった。要因として、小論文指導と将来の進路を早い段階から、より生徒に意識させる必要性があると感じた。</p> <p>第2学年</p> <p>小論文指導については、キャリアデザインサポート・課題作文ともに、多くの項目で過去3年の成績を下回ることであった。</p> <p>原因として、やはり第1学年と同じく、2学期以降の臨時休校が影響していると考えられる。実際に例年であれば、小論文指導の時間に、</p>

教員がその場で添削し指導を行うことがほとんどである。しかし、臨時休校になった3学期以降は課題という形で行ったため、きめ細かく指導を行うことができなかったことが影響していると考えられる。

第3学年となる来年度は、よりきめ細かく指導し、生徒の希望する進路決定に繋げていきたい。

第3学年
志望理由書の模試に関して、2019年度、2020年度の3年生と比較しても、今年度の学年では各項目で評価が高いといえる。特に、「志望理由の明確さ」・「社会的意義」について例年に比べ、高い評価となっている。

しかし、昨年度の同一学年の評価と比較した場合、「志望理由の明確さ」・「目標・志望に対するリサーチ」の評価が下がっている。これに関しては、学年が上がったことにより、将来希望する職業や学問の「社会的意義」について考えるようになり、希望している進学先でその職業や学問についてどれだけ学べるのか、自分自身の希望していることは、その職業や学問であるのかを明確にできていない生徒が増えたといえる。

課題作文に関しては、2年次の「自分の長所」と3年次の「高校生活で得たもの」の結果を比べると、全体的に評価が下がっている。このこれについて、長所については理解し、表現することはできているが、高校生活で何を得たのかについては、そもそも生徒自身が高校生活で得たことが分からず、分からないものを表現できないという状況である。

合格実績
準2級2人、3級22人、4級39人、5級59人、6級43人、7級18人。
6月11日に実施した第一回漢字検定において、準2級の合格者が2名出ている(昨年度0名)。近年の上位級合格者の増加により、生徒全体の受検級水準は高くなりつつある。より高い級の受験者が増えるため、講座の開講などの対策を取る必要がある。

本年度は、進学・就職に利用する履歴書への記入に間に合わないことがないように、第二回漢字検定の受検日を10月8日から9月3日に変更した。その結果、合格者は受験者158名中9名のみであったが、履歴書提出に間に合わせる事ができた。検定講座の回数を十分に設けることができなかったこと、長期休暇明けすぐの受検となってしまったこと、また履歴書に記入することができる級(3級以上)に挑戦した受験者へのフォロー不足が、合格率が少なかった原因であると考えられる。

コロナ禍の影響により、2月4日に実施予定であった第三回受検は中止となった。受検機会の減少により、昨年度と比べて年度全体の合格者数は減少している。

本校生徒が受験した漢検以外の検定とその結果
○日本実用英語技能検定
3級3人、4級3人、5級3人
○ビジネス検定
*日本語ワープロ検定
準2級1人、3級3人、4級2人

検定学習(漢検)

検定実施回数
1年 1回
2年 1回
3年 2回
検定講座実施回数
1年…5回
2年…7回
3年…2回

			＊情報処理技能検定 ４級７人 ＊文章入カスピード認定試験 ３級１人、４級１人、５級１人 ○ニュース時事能力検定 ２級１人
--	--	--	---

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
生徒の規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立、身だしなみの徹底、マナーの向上	遅刻指導の徹底	毎朝、登校時に阪急箕面駅から学校までの通学路に教員が立ち、登校指導を行う。また、ポイント指導を取り入れ、遅刻数をポイント化し、ポイント数に応じた指導を行う。	今年度の一日当たりの遅刻数を過去３年分の数と比較し、算出する。	○１日当たりの平均遅刻者数 ＊令和３年度２０．８ ＊令和２年度１９．９ ＊令和元年度２７．９ 昨年度と比べて若干遅刻者数が増えている。遅刻者数が増加しないよう日々の指導を徹底していく。
	身だしなみの徹底	学期始め、定期考査中に頭髪服装検査を生徒指導担当、生徒指導専従により行い、改善が必要な生徒には、学年で徹底指導を行う。	頭髪服装検査で頭髪指導数を過去３年分と比較し、年度平均数２５％以下を目指す。	＊令和３年度１１．９ ＊令和２年度１４．０ ＊令和元年度１６．０ 令和３年度は昨年度に続き目標数値２５％以下を達成しており、指導数も減少している。中長期的目標としては、昨年度にもあげたとおり１０％～１５％を目指す。今年度もこの数値も達成している。
	マナーの向上	毎朝、教員が通学路に立ち、あいさつ運動を行い、併せて生徒会でも定期的に行っている。 校外清掃の実施	教員、生徒会だけではなく、一般生徒も巻き込んで常日頃からあいさつが出来るように引き続き取り組む。	数値化は困難ではあるが、継続して行う。近隣の方から「元気にあいさつしてくれる」など評価も受けている。
	講習会の実施	令和３年度 実施講習会 ・スマホ・携帯安全講習会 ・自転車指導講習会 ・薬物乱用防止講習（１・２年）	講習内容によって、講習後の振り返りを行い、効果や理解の状況を把握している。	実施の効果が確認でき、今後も必要に応じて適宜講習を実施し、生徒の意識の涵養につとめる。

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
生徒自身の自主活動	学校行事の充実	体育祭、文化祭など、生徒一人ひとりが魅力を感じる取組を行う。 クラス単位、学年単位で“自分たちで作り上げる体育祭、文化祭”という意識づけを行う。 球技大会、体育祭はそれぞれ６月、９月に実施予定だったが、コロナ禍の影響で一度中止を決めた。感染状況を見て、１１月にスポーツ祭という形で実施できた。 文化祭は感染防止対策として規模、	生徒向けアンケートで肯定感８０％以上を目標にあげる。	文化祭生徒アンケートでは「全体を通して楽しめましたか」の項目で「楽しめた」と「まあまあ楽しめた」の割合が８７．５％であった。同様に各部門ごとでは 展示 ８７．５％ 舞台 ７９．６％ 模擬店 ５２．４％ 模擬店の満足度が低いことについては感染防止対策のため飲食を伴う模擬店を行わなかったこともあるのではないかと考えられる。生徒アンケートでは模擬店をしたいという要望

を充 実さ させ 、自 立の 精 神を 養 う		時間を縮小し（昼食無し飲食を伴う模擬店無し、13時まで）で行った。		は大きい。 体育祭生徒アンケート未実施
	部活動の活性化、加入率アップ	オープンキャンパスや新入生向け部活動紹介等をより充実させ、学校HP等を利用し、各部のアピールを行う。 令和3年度は部活紹介を1学期始めに行うことができた。	クラブ加入率50%以上を目指す。	○クラブ加入率 令和3年度60% 令和2年度60% 令和元年度57% 3年連続して50%以上を達成できた。
	生徒会活動の充実	主な活動 ○学校における生徒の生活の改善と向上を図る活動 ○文化祭運営 ○ボランティア活動など社会参加に関する活動 ・あいさつ運動の実施 ・オープンキャンパス運営補助 ・文化祭運営 ・コンタクトレンズ空ケース回収		・あいさつ運動を今年も生徒会で行った。 ・コロナ禍の中、箕面祭りが中止されたため、ボランティア参加はできなかった。 ・校内に専用BOXを設置し、リサイクルで得た利益をワクチン購入費用等の目的で支援する団体へ次年度末に送付・寄付予定。

普通科総合選択制アンケートについて

第3学年主任 岡垣

第3学年では学年末に別紙アンケートをとり、普通科総合選択制についての現状を調査した。
それぞれの授業（専科・基礎教養）について点数化し、選択授業全体の「満足度」を計算した。

【方法】	①たいへん効果があった	=100点
	②それなりに効果があった	=60点
	③あまり効果がなかった	=30点
	④全然効果がなかった	=0点
	⑤あまり覚えていない	=得点に含めない
	*それぞれの回答を点数化→平均=「満足度」(100点満点)とした。	

(1) 問1. 1年次の体験実習講座の「満足度」の平均=78.5

〈内訳〉

問1%	①	25	②	40.6	③	7.5	④	5.6	⑤	21.2
-----	---	----	---	------	---	-----	---	-----	---	------

効果があったと回答した生徒が、65%近くあり、満足度も高くなっている。逆に、「⑤あまり覚えていない」という生徒が21%いるということは、そこでの学習が進路についてあまり影響を与えていないと考えられる。

(2) 問2. 資格検定講座の「満足度」の平均=65.8

〈内訳〉

問2%	①	19.6	②	54.4	③	17.7	④	8.2
-----	---	------	---	------	---	------	---	-----

「②それなりに取り組んだ」が過半数を占めている。しかし「③あまり意欲的に取り組めなかった」「④全然取り組まなかった」の合計が「①たいへん意欲的に取り組んだ」を上回っているため、もっと意欲的に取り組めるような仕掛けが必要である。

(3) 問3. 選択の基準にみられる「満足度」の平均

ここでは、「①進路」「⑤シラバス」を基準として選択した者について「満足度」が高い傾向がみられた。また、「⑦友人と同じ」や「⑧先生の勧め」を選んだ者については自分で意思決定が出来ないことから、「満足度」が顕著に低い傾向がみられた。

	専科	基礎教養	2年	3年	全体
1 進路	73.0	75.6	75.4	73.4	74.7
2 興味関心	66.4	67.2	66.4	68.2	65.3
3 エリア	72.4	75.2	73.6	71.8	69.7
4 難易度	70.5	63.5	65.4	71.9	60.2
5 シラバス	75.0	85.8	82.8	78.6	81.8
6 考査の有無	75.0	61.4	71.3	60.0	71.4
7 友人と同じ	51.9	60.2	58.5	59.6	59.4
8 先生の勧め	59.7	64.0	64.7	51.5	55.7
9 楽したい	62.9	65.5	62.3	65.9	60.0

(4) 問4. 専科・基礎教養の「満足度」について

A. それぞれの「満足度」の平均 (昨年度参考)

① 全体の選択授業の「満足度」の平均	= 68.7	(69.2)
② 専科の「満足度」の平均	= 66.9	(68.1)
基礎教養の「満足度」の平均	= 70.1	(70.0)
③ 2年次の選択授業の「満足度」の平均	= 68.4	(68.5)
3年次の選択授業の「満足度」の平均	= 69.0	(69.7)

	A(進路)	B(興味関心)	C(難易度)
専科Ⅰ	66.3	68.8	68.8
専科Ⅱ	67.2	69.4	73.6
専科Ⅲ	67.1	68.1	67.4
専科平均	67.8	69.7	71.0
基礎教養Ⅰ	67.6	66.1	69.1
基礎教養Ⅱ	71.2	73.6	73.8
基礎教養Ⅲ	69.1	68.8	71.3
基礎教養Ⅳ	72.6	76.1	74.1
基礎教養平均	70.7	71.8	73.0

B. 専科・基礎教養の内訳

昨年度と比べると、だいたい同じような数値となった。専科より基礎教養の満足度が高い。基礎教養の方が「進路」を意識した授業設定をしている点が、それぞれの満足度を上げているように考えられる。満足度を上げるためには、進路とのミスマッチを解消し、前向きに選択できるような指導が重要である。

(5) 問5. 進路を決めた時期にみられる「満足度」

進路	専科	基礎教養	2年	3年	全体
1 1年前半	85.7	85.2	85.1	85.6	85.4
2 1年後半	76.2	76.0	72.1	79.0	76.0
3 2年前半	72.7	74.5	73.5	73.9	73.7
4 2年後半	67.5	70.3	68.7	69.4	69.1
5 3年前半	55.7	62.8	61.1	58.6	59.7
6 3年後半	59.7	63.6	56.7	63.4	62.0
7 まだ	26.7	34.6	34.3	28.9	31.2

<内訳>

問5%	①	19.1	②	8.3	③	15.9	④	24.8	⑤	20.4	⑥	7.0	⑦	4.5
-----	---	------	---	-----	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	-----

ここでは、「①1年前半」に進路を決めている生徒の満足度が80点を超えていることから、入学後から進路について考えている生徒の意識が高く満足した科目選択ができていると言える。「⑦まだ」を選んでいる生徒は、極端に満足度を下げていることから、自分の進路が明確に決められていない生徒は、当然満足した選択が出来ていない。したがって、自分の進路を早い段階で決め、自分の進路に即した選択をすれば、授業への「満足度」も上がると考えられる。

(6) 問6. 進路とエリアの合致にみられる「満足度」

エリア	専科	基礎教養	2年	3年	全体
1 ちょうど合っていた	81.6	84.4	82.3	83.8	83.2
2 それなりに合っていた	60.8	62.2	60.2	62.7	61.6
3 あまり合っていなかった	52.0	62.8	60.3	56.5	58.1
4 全然合っていなかった	32.8	41.3	37.2	37.9	37.6
5 わからない	53.3	56.6	61.5	50.5	55.2

ここでは、進路とエリアが合致すればするほど、選択授業の「満足度」が高い傾向となった。「④全然合っていなかった」のようにエリアの意識が全くない生徒は「満足度」が非常に低い結果となった。

このような分析から、選択授業の選択の際には、「進路」＋「エリア」を十分に意識させて選択させる必要があることがわかる。そのためにも、1年次の選択科目最終調査までに自分の目標とする「進路」を設定できることが好ましい。

(7) 問7. 「こんな授業があればよかったのに」

- ・書道
- ・数Ⅲ
- ・TOEIC
- ・手話
- ・フットサル
- ・メイク講座
- ・音楽系の授業を増やして欲しい
- ・実験が少ない
- ・塾講師による授業

どの項目も複数名の回答ではなく、個人的な回答であったが、それぞれが必要としている講座のように思える。個々の進路実現のためにも、細やかな指導が必要である。

(8) まとめ

自分の進路について、早い段階で考え始める事が重要であることがわかる。選択するにあたって希望する進路に沿った決め方をしたものは満足度も高くなっておるが教員に勧められて選択したものは満足度も低くなっていることがわかる。

入学と同時に3年後を見据えた教員の働きかけが重要であると思う。

生徒からの希望が今の時代に沿ったものになっていたのは興味深いところであるので前向きに検討すべきである。